

## 国外実態調査報告書

---

テーマ : アメリカ式教育・就活制度の理解と SDGs におけるコラボレーション  
ゼミ名 : 武石 智香子ゼミ  
調査日 : 2019年9月10日(火)~9月18日(水)  
調査先 : ブランダイス大学、ハーバード大学  
授業科目名 : 演習 I  
参加学生数 : 11名(3年生)

### 調査の趣旨(目的)

演習 I (3年生)履修生 11名を引率して米国ボストンおよび NY にて国外実態調査を行う。ボストンに行く目的はプレゼン、討論、ディスカッションクラス参加の3つである。NY では現地で起業した日本人ビジネスパーソンに、日米での就職活動の違いについてご講演頂く。

#### ・ Brandeis University での発表会

まず、1つ目の目的は、Brandeis 大学において SDGs に関する英語プレゼンを行うことである。春学期から準備をしてきたプレゼンを、パワーポイントを用いて行う予定である。

2つ目の目的は、日本語学科の学生と帰国後もペアで連絡を取り、共同で SDGs に関わるパワーポイントを作成していくことである。日本語学科の学生との合同授業は、滞在期間中に2日予定している。

#### ・ Harvard University における討論会

3つ目の目的は、ハーバード大学で Social Studies を教える教員と、社会科学の古典について英語で討論をすることである。こちらからは、アダム・スミスに関する発表を行う。

#### ・ NY での講演会

4つ目の目的は、NY 白門会の小楠氏による、日米の就職活動に関するご講演を頂く。

#### ・ Brandeis University におけるセミナー

5つ目の目的は、International and Global Studies の学生と“Nationalism and Globalization” というセミナーに参加し(武石が発表者の一人)、学生も討論に加わることである。

武石ゼミでは、2006年度以降、複数回ボストンの大学を訪れ、同様の海外実態調査を行い、その報告を公開している。今年度も同様の教育効果が期待される。

### 調査結果

#### ① ブランダイス大学で SDGs の発表

ゼミで学修していた SDGs を各テーマに分けてそれぞれが担当を持ち、自分の考える意見を持って、ブランダイス大学の学生に発表した。日本の学生とアメリカの学生が持つ社会問題に対する意見はテーマによっては大きく異なるものがあり、お互いの意見を活発に

交流し合うことでとても意義のある時間になったと感じた。



ブランダイス大学での SDGs プレゼンの様子

## ②ブランダイス大学でのペアワーク

ブランダイス大学では、日本語学科の生徒と SDGs についてのペアワークを行った。初めにそれぞれの興味のあることを発表し合い、ブランダイス側の学生と私たちでお互いに興味のあるもの同士でペアになり、それぞれのテーマについて話した。ブランダイス大学生と私たちではその問題に対する思いや考え方の違いに差があったが、お互いに話し合っていく中で新たな発見を見つけることができ、これからのそれぞれの課題を見出すことができたのではないかと感じる。

この経験は私たちにとって次につながるものになったのではないと思う。



## ③ブランダイス大学でのナショナリズムに関する講義

ブランダイス大学で、ナショナリズムに関する講義を受け、国民間で異なる文化と思考形態をもっていることを学んだ。アメリカの大学の授業では、日本の大学とは異なり積極的に学生が挙手をして発言していた。教授と学生間で活発なコミュニケーションをしており、有意義な授業を提供していることを実感した。日本の大学でも、アメリカの大学でも、このようなスタイルをとることで学生の学修に対する意識も変わり、向上するだろうと感じた。

## ④ハーバード大学でのアダム・スミスに関するディスカッションへの参加

事前に学修しておいたアダム・スミスについて代表者がパワーポイントを使って英語で発表をし、ハーバード大学の教授とディスカッションをした。日本とアメリカでの資本主義に対する考え方の違いを知ることができたと同時に、英語でコミュニケーションをすることの難しさと、自分たちの力不足による悔しさを肌で感じることもできた。相手の意

見を理解する、自分の意見を伝える為には英語力が不可欠となるため力を入れて学修すべきだと実感した。

- ⑤コロンビア大学でのキャンパスツアー  
商学部の久保知一先生とともにコロンビア大学のキャンパスを歩いた。コロンビア大学にはビジネススクールがあり、アメリカでは一度退職してからビジネススクールに通い、MBAを取得する。ビジネススクールに通う文化や日本とアメリカの仕組みの違いについて、考えることの多い体験だった。



- ⑥日米就活システムの違いの講演会の受講

WE WORK というコワーキングスペースの会議室で中央大学のOBで日系企業向けの人事システムのサービスを展開している小楠仁啓様に「日米の就活の違い」について講演会を実施していただいた。日本とアメリカで就職の考え方に大きな違いがあり、それに伴い学生生活にも違いがあることを知った。その中でもアメリカで就職する際に専門性、語学力、ビザの三要素が重要になり、自分の強みを生かして就活することが話の中で強調されていた部分であり、これから就活を考える私たちにも印象的なところであった。



WE WORKにて小楠様によるセミナーの様子